

## 次期長野県食と農業農村振興計画の検討における新たな視点

### 重要な考え方、キーワード

- ・ SDGs
- ・ well-being (ウェルビーイング)
- ・ 多様性 (ダイバーシティ)
- ・ ウィズ・アフターコロナへの対応
- ・ 脱炭素社会
- ・ サーキュラーエコノミー
- ・ 環境配慮
- ・ 地方回帰
- ・ エシカル消費
- ・ DX
- ・ 災害に強い産地づくり
- ・ 長野県農業の強み・独自性 など

### 農政部若手職員の意見

#### 長野県農業の強み・独自性

##### (生産)

- 標高・気温差があり、南北に長いため栽培できる品目が多い。
- 野菜、果樹、米などそれぞれの産地形成がなされている。
- 中山間地域農業が成り立っており、地域ごとに特色ある農産物が多数生まれている。
- 試験場における優良な新品種開発が盛んに行われている。

##### (販売)

- 外国人観光客が多く、マーケティングのターゲットにできる。
- 接している県が多いので、販路が多様に持ちやすい。
- ほ場と加工販売店の連携が進んでいる産地が多く、誘客や消費拡大に効果的。

##### (担い手)

- 他県と比べ新規就農者の育成体制が充実している。
- 農ある暮らし、半農半Xや二地域居住のような多様な人材も受け入れることができる地理・地形的優位性がある。
- 消費者へのPRの場が多いだけでなく、雇用の人材融通の点でも観光と連携できる。

#### 強み・独自性を活かすためには

- 中山間地域での農業の持続性を考え、人材確保について引き続き注力することが必要。
- 求める担い手をIターンや新規就農者等の若手に限定するのではなく、家族を中心とした地域住民への継承を優先することも重要。
- 地域の未利用資源・独自資源の活用の拡大を図っていくことが重要。
- 農産物の需要・供給量を把握し、5年でなく10～15年後の地域のあり方と目標を考えていくべき。目先の生産量や面積の増加のみではなく、需要を把握したうえで生産振興を図っていくことが必要。
- 世界で環境問題への関心が高まっているなかで、本県の冷涼な気候を活かし環境にやさしい農業に先進的に取り組んでいくことが重要。
- 本県は地形的に大規模経営が難しいと思われるが、小規模経営のメリットもあり、本県農業の実情に応じた支援や新規就農者の獲得を目指した取組を進めていくことが重要。